



日本骨髄バンクの現状（平成 24 年 3 月末現在）

	2 月	3 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,372	3,548	407,871	537,859
患者登録者数	239	251	3,046	35,359
移植例数	104	126	-	14,051

- 20 歳未満のドナー登録者数
3 月 179 人
合計 17,205 人（17 年 3 月～）
- 51 歳以上のドナー登録者数
3 月新規 160 人
延長 260 人
合計 26,902 人

■3 月の区分別ドナー登録者数： 献血ルーム／1,553 人、献血併行型集団登録会／1,905 人、集団登録会／16 人、
その他／74 人 注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数）778 人 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）484 件

■国際協力の現状（2012 年 1 月～3 月）

<海外ドナー⇒国内患者> 移植数 2 件： NMDP 1 件 台湾 1 件 累計移植数：171 件

<国内ドナー⇒海外患者> 提供数 2 件： KMDP 2 件 累計提供数：211 件

1 公益財団法人への移行と新評議員・理事・監事

当財団は本年 1 月に公益財団法人の認定を受けていましたが、4 月 1 日に登記を行い、「公益財団法人骨髄移植推進財団」として業務を開始しました。新公益法人制度において理事会は、①法人の業務執行の決定②理事の職務執行の監督③代表理事（理事長）選・解任一を職務とする機関となり、評議員会は理事、監事の選・解任等の法律及び定款で定められた事項を決議する機関となります。また、評議員、理事の定数も削減されました。

新しい評議員、理事、監事をご紹介します。（五十音順、敬称略）

<評議員(11 名)> 芦田 信、岡本 真一郎、小達 一雄、垣添 忠生、河 敬世、串田 正克、
神山 清子、坂巻 壽、田所 憲治、中溝 裕子、溝口 秀昭

<理事(10 名)> 伊藤 雅治（副理事長）、宇都木 伸、加藤 俊一、小寺 良尚、

齋藤 英彦（副理事長）、佐々木 利和、笹月 健彦、鈴木 利治、橋本 明子、正岡 徹（理事長）

<監事(2 名)> 石井 孝宜、結城 康郎

2 平成 24 年度事業計画・予算について

3 月 21 日（水）に開催された第 42 回通常理事会・評議員会で、平成 24 年度事業計画と予算が承認されました。

本年度の事業計画は、1. 更なるドナー登録者の拡大のための施策、2. コーディネート期間の短縮に寄与する施策、3. コーディネート実施体制を整備・強化するための施策、4. P B S C T を含むコーディネートを円滑に本格稼働するための施策一を 4 つの柱としています。昨年度は移植件数が大きく伸びましたが、移植率が 6 割程度という状況は変わっていません。これには財団内外の様々な要因がありますが、財団としては P B S C T の本格稼働を中心にシステムやコーディネート体制の改善を行い、より多くの移植実現を目指して事業を進めていきます。

予算については、昨年度の実績から移植件数を年間 1,260 件（国内ドナー・国内患者）と設定しました。昨年度は寄付金が大幅に減少していることから、平成 23 年度当初予算と比べると収入・支出共に減額しており、緊縮型の予算となっています。無駄を排除した効率的な予算執行を心がける一方、積極



的に募金活動を行い、財源の確保に努めます。なお、新法人への移行に伴い、本年度予算から「収支計算書」に代り「正味財産増減計算書」を作成することになりました。全体的な資金の状況が分かるものになっています。

※詳しくは財団 HP (http://www.jmdp.or.jp/about_us/overview/corporation.html) をご覧ください。

3 平成 23 年度の移植数、ドナー登録者数等の実績について

平成 23 年度の移植数は 1,272 件で、平成 22 年度 (1,192 件) より 80 件、過去最高だった平成 21 年度 (1,232 件) より 40 件の増加となりました。内訳は〔国内ドナー→国内患者〕が 1,258 件で 77 件の増加、海外バンクを介した〔海外ドナー→国内患者〕が 4 件で 2 件の減少、〔国内ドナー→海外患者〕が 10 件で 5 件の増加となりましたが、末梢血幹細胞移植の実施は 3 件にとどまっています。患者さんの登録数は前年度の 2,684 人より 117 人多い 2,801 人 (国内 2,206 人、海外 595 人) でした。

一方、ドナー登録者数は、平成 24 年 3 月末現在で 407,871 人です。年間の新規登録者数は 41,763 人で、全国 33 の県で前年度を上回りました。前年度 36,667 人から 5,096 人、13.9%の増加です。登録窓口別に比較すると、献血併行型登録会が 23,614 人 (前年度比 943 人増) で最多。次いで日赤固定窓口 (献血ルーム等) が 16,458 人 (前年度比 4,516 人増)、集団登録会 771 人 (前年度比 283 人減) でした。献血併行登録会の登録者数は、沖縄県 2,776 人、栃木県 2,509 人、宮城県 1,789 人の 3 県が群を抜いています。宮城県以外にも岩手県や茨城県など、震災被害が大きかった県で登録者数の増加が見られました。大変な状況下での皆さまのご尽力に心よりお礼を申し上げます。また、固定窓口での大幅増は、再開した A C ジャパンの広告効果もあるかと思いますが、埼玉県が規模を拡大して継続した緊急雇用対策による骨髓バンク推進事業 (献血ルームにおける登録推進活動・登録者 5,308 人) なくしては成し得ませんでした。埼玉県の登録者数は全国 1 位の 6,101 人で、2 位の東京都 (3,678 人) と 3 位の沖縄県 (2,867 人) をはるかに上回り、全登録者数の 14.6%にも及びました。一方、1,000 人当たりの登録者数が全国最下位であった群馬県ですが、年間の登録者数は前年度比 3.7 倍の 675 人。ついに最下位脱出を果たしました。前年度の登録者数が全国最少の 58 人であった富山県も、県が積極的に献血併行登録会を推進した効果もあり、136 人と登録者数を伸ばしました。

今後も一人でも多くの患者さんに移植のチャンスを提供できるよう、関係者一同、努力を続けてまいります。皆さまのより一層のお力添えをいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

4 診療報酬の改定

平成 24 年度の診療報酬改定で、骨髓・末梢血幹細胞採取の保険点数が 2,440 点 (19,200 点→21,640 点)、骨髓・末梢血幹細胞移植は 850 点 (65,600 点→66,450 点) 増え、増点分については採取施設と移植施設にそれぞれ配分されることになりました。採取認定施設のインセンティブになることが期待されます。

5 日本生命が末梢血幹細胞ドナーへの給付を保障対象とする保険商品を販売

平成 24 年 4 月 2 日、日本生命保険相互会社は保険加入者が造血幹細胞ドナーとなった場合に給付を行う保険商品の販売を開始しました。これまでも善意のドナーをサポートすべく、10 社以上の生保会社・損保会社・共済互助会が骨髓ドナーへの給付を行う個人保険を販売していますが、末梢血幹細胞ドナーに対しての給付保障は同社が初めてとなります。

6 全国大会 2012 について

9 月 15 日（土）に宮城県仙台市の太白区文化センターで開催する今年度の全国大会は、さい帯血バンクネットワークとの共催となりました。今後は両バンク合同の実行委員会を立ち上げ、地元の関係者やボランティアの皆さまのご協力を得て準備を進めてまいります。

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
業務執行会議	公開・一部非公開	4 月 19 日（木）17:30~19:30 廣瀬第 2 ビル地下会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 平成 24 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定更新について

平成 24 年度非血縁者間骨髄および末梢血幹細胞採取認定施設の認定更新に関して、該当施設の先生方にはお忙しいところ調査にご協力くださりましてありがとうございました。平成 24 年度は、非血縁者間骨髄採取施設として 171 施設、非血縁者間末梢血幹細胞採取施設として 34 施設、また非血縁者間骨髄移植診療科として 219 診療科、非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科として 51 診療科が認定更新されました。なお、昨年度の新規認定は、骨髄採取が 3 施設、末梢血幹細胞採取が 14 施設でした。

近年、非血縁者間移植・採取件数は飛躍的に増加しており、採取受け入れ施設の確保は継続した課題となっています。今後も 1 件でも多く骨髄および末梢血幹細胞採取を受け入れていただきますよう、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

9 確認検査項目（HBs 抗体、HbA1c）の検査方法等の変更について（医師の方へ）

1. HBs 抗体

検査試薬の変更に伴い、検査方法及び基準値が下記のように変更になります。

検体量と適格性判定基準に変更はありません。

	新	旧
方法	PHA 法	PA 法
基準値	血清 8 未満	血清陰性（4 未満）

2. HbA1c

日本糖尿病学会からの HbA1c の国際標準化の基本方針に沿い、検査内容等が変更になります。

	新	旧
項目コード	64045	26077
検査項目	HbA1c（NGSP）	HbA1c（JDS）

10 平成 24 年度コーディネーター研修について

一昨年から PBSC T コーディネートの研修を行ってきましたが、6 月からの PBSC T コーディネートの本格稼働に伴い、件数の増加が見込まれ、これまで主として CS や研修等担当者が行っていた PBSC T のコーディネートをコーディネーターが担当することになります。今年度はそれぞれが経験した事例に基づき、ドナーからの質問事項や、再確認が必要なポイントを出し合って、認識を一つにするための研修を実施します。

また、骨髄、PBSC T とともにコーディネートルールの再確認を行い、対応力向上のためにコミュニケーションや説明方法などの研修も行います。

コーディネーターの皆さまには、別紙「平成 24 年度コーディネーター研修について」を同封しますのでご参照ください。

11 連絡事項

◆ゴールデンウィークの確認検査予約および検体保存事業の検体受付について (コーディネーターの方へ)

1. ゴールデンウィーク期間の確認検査・再検査の実施と SRL 予約について

○確認検査

ドナーがすでに HLA (DNA) の情報を持っているか否かにより、対応が異なります。

どちらに該当するかは、地区事務局から申し送りをしますので、それに従って日程調整をお願いします。

①一般血液検査および HLA ビーズ法の場合

4/26 (木) ~5/6 (日) は実施不可。

②一般血液検査のみの場合

カレンダーどおり実施可。

○確認検査再検査

カレンダーどおり実施可能。

○SRL の予約期限：通常どおり(確認検査実施日は予約日から 4 営業日以降)。

2. ゴールデンウィーク期間の東海大学における検体保存事業の検体受付について

○連休前 ⇒ 4/27 (金) までに東海大必着

※北海道・九州地区は 4/25(水)までに、それ以外の地区は 4/26(木) までに発送をお願いします。

○連休後 ⇒ 5/7 (月) 採血・発送分から受付可能

◆各種データについて

今号では、マンスリー JMDP に毎月掲載している「コーディネーター件数(月次実績)」の他に、「コーディネーター件数(2011年度実績)」「コーディネーター期間(2011年度実績)」「終了理由別終了件数(2011年度実績)」を同封します。